大坂物語

リ 5
1480

大坂物語

全

卅四
第卅四
共

45
1480

1480

門 5
號 1480
巻

大坂物語 上

温故堂文庫
和學講談所

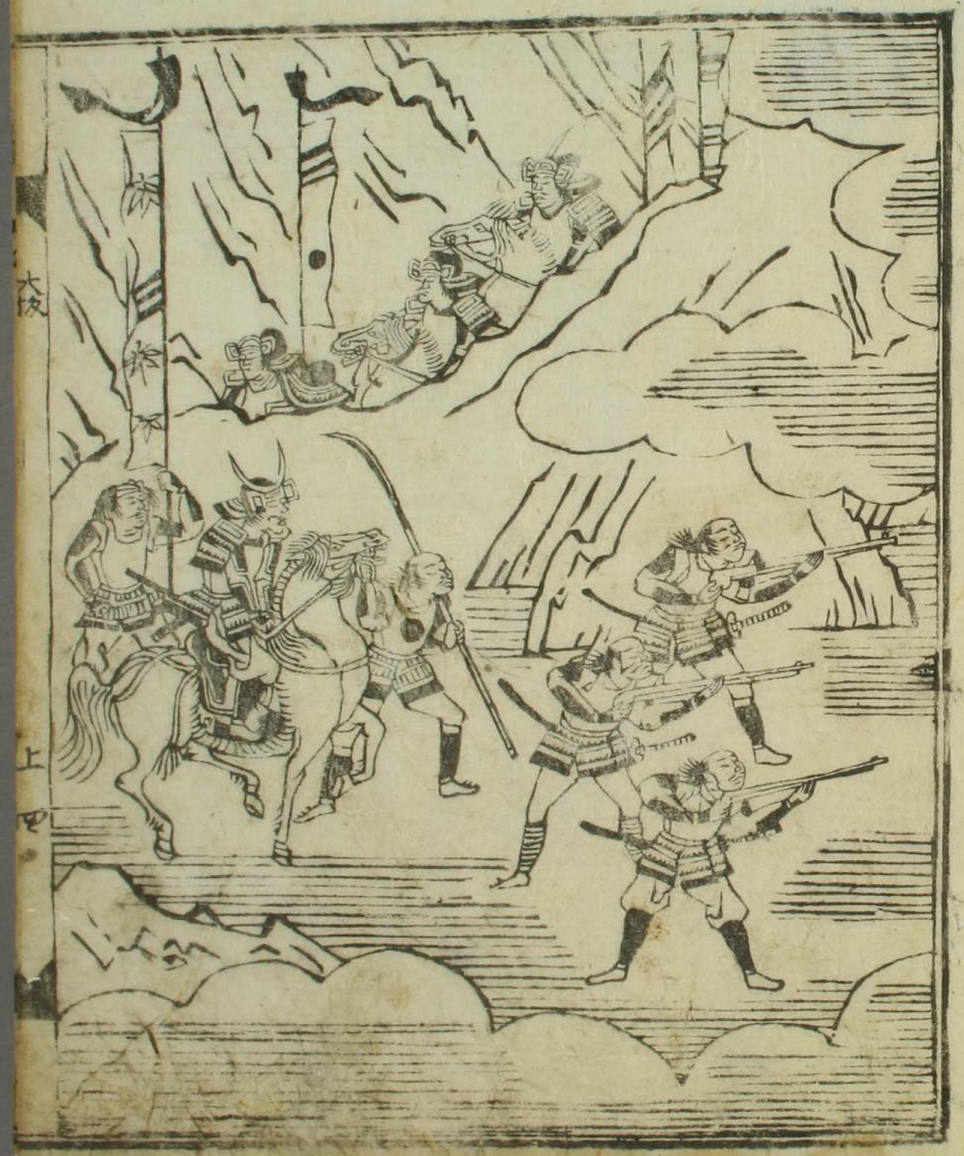
さうんなるをもちくをやゝ語ふ事ゆへ一里と
ゆゝ。ほどゝ語さゝくさき事なるを
去頃(さうかと)りしひでよりこゝ旨(おみん)の事ゆゝ不及
だまとり語あしまでをだなごゝ語ゝ入て我方
関白(くりんしく)りしゆんじ。志田らくまといて汗牽(こゝかう)とゆゝ語
まことに。ゑがこうるりし事どもなるを志うれ。
屋まゝのさゝがとおけ。志やくそんをのうれ。
志田く病(ひやう)をもちまゝ。しきりなれなひでよし。
子息(しそく)ひでよりはいまぐ。おされられ内府公と語
うしろこうりしたのむよし。俗(おかせ)とうれて。浅井ゝ志ゝや

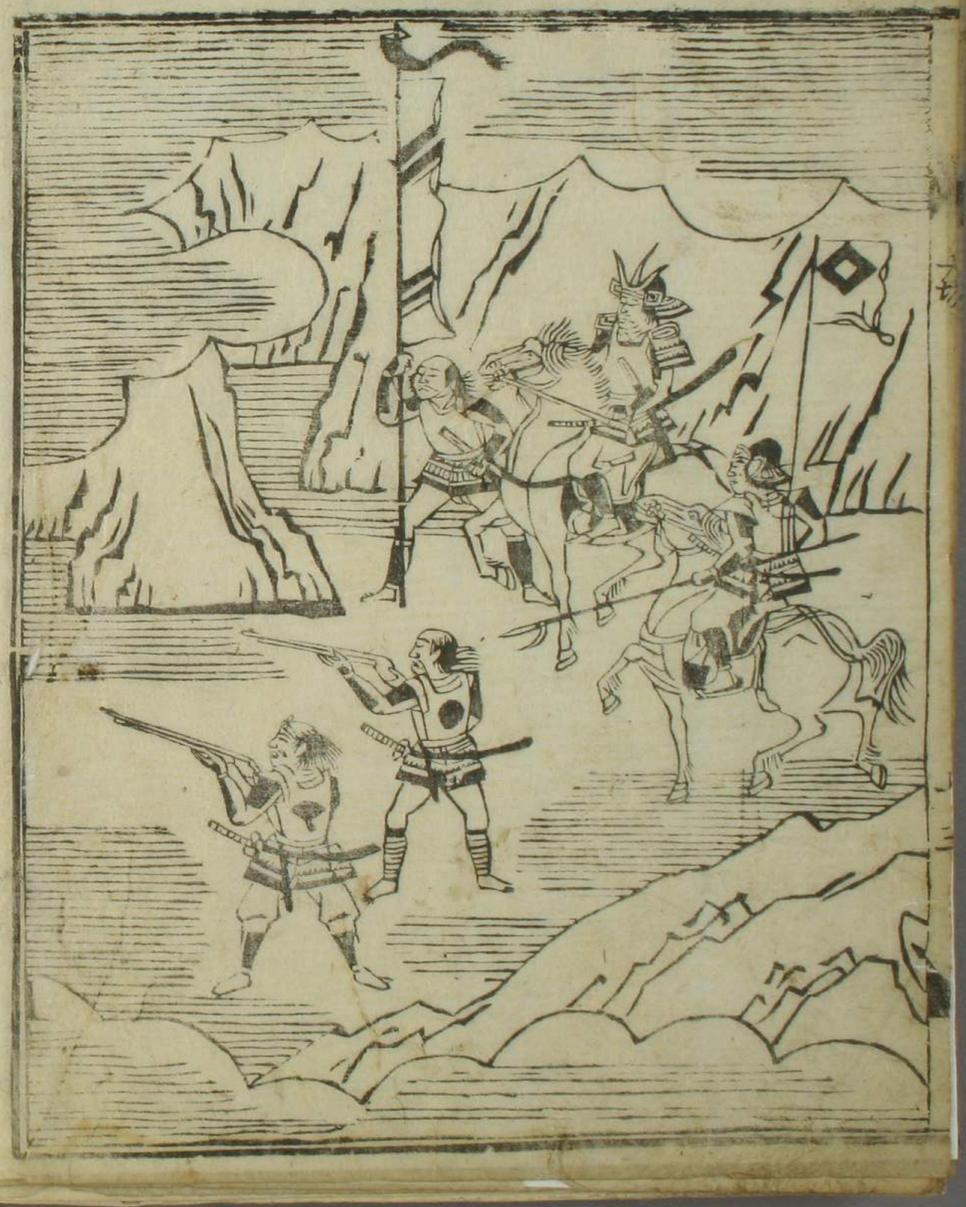
の風なり。さそなれば他界なる事なれば日
本の諸大名はこしらくをまゐるものなり。ひでよりの
志をうやしかれ加賀のひぜん利光ぶちごの長尾
かけかけ。あへは諸のかりなれば。よりて内府云ふ事。
此あへはなかなかしくは諸のほりなれぞいそこさのかが
ゆるべさよし。おかせこされ以へは。ひてよし。好笠の
時よりご三年のぞゆるし。ぞ君のかうましこさの返状
あまたぞさてはむかんのぞけさてありさて。加賀へ。
家康は出馬あるべさよしぶさはまゐるなれば。あれ
かひよりて和議よりかゆるなりさてかけかけは洗井よ
同心なれば。よりて。かけかけぢんと。ぞ。ふれ。なされは
此は其又年六月中旬より家康は江戸へ下ゆる諸

江戸中納言は西國小國の諸大名。その外ひでよしの。
馬廻をもよりし。七月廿日より。江戸をたら。同廿二日よ
ひさちの國。うほの文まで。ぞ悪なされ。家康は同廿
三日より。志をおさのぞやまよ諸つきなされ以下より
ひてよし。此代の時は。天下の三年ぞとをひさしたら。
石田治部お捕やうのみざまと。よりさいくいと存し
じかんのくけさてとれし。中國西國よのくゆるとこ
まゐるなる京のうえべくまいぶんとまりし。偽ほ又八郎
おなしくよ七おきのもり。菊川さんご。中納言ふ西
洗のうえぞうき田の宰相。まし田右衛門みなくの京へ宰
國寺とぞうひこして。我は一味同心よ。ひさしくしりし。
大のまれなる。形部お捕は内府云く一たん此ふ閑なり。

さるゝゆへ諸事はさんかうしあるべしぞそさはかりまゝ以へ
この御つかひ上りなる。命津のちんへぬさし。義洗まてす
日ハ刑ア。と浴ロのかたのむとしぞ。同ハ恐やまを不敢し
ぞ。河せんよ。河事中くとよひかさし。たもひ
こうまゝまて鄉るべしこゝ。されハ。ハかれりしひさろ
上ハ。元祖とも。貴重のいのちとしひとくこゝ。されハ。
その義をしとしハ。ぢうとしまゝ。ぞこそ。同心する
しとしくんのさくもあしく。ぞさしなるさてあるべきにあしさ
まハ西國の軍勢。こんのことくさんせのかりたん伏見
の城ハ。まゝ井左右馬とせめかゝり。丹後の國ハ。ちし
も越中。瘡城とせめたとし。江州大津。京極瘡城。伊勢
の國津のしろハ上ハ大和の城とせめたとしなる

軍の門出よりこゝ。ぞ。諸こひみの國へ。河て出。家康公ハ
志をおさのぞやまゝて。ぞしとゝ七月廿三日の夜半に。
さあしめし。評定日数ありて。けり河だもてよハゆう
きの宰相正宗とをさへさして。ぞとさなされ。八月一日に。
江戸へ。ぞうへ。まゝて。八月中ハ江戸にぞこうまうあるゝ
々なさて。うつてのかるそのせんぢん。ぞん家の子にハ。多
中務。伊井の兵ア。中むら一ぐ。たしぞ越中。加茂左馬。
寺さハし。西。連長左馬。かなりまゝ法戸。たかしく。出雲
茂堂。作波。くろさ甲斐のうこ。これらの衆ハ八月廿三日の
あり河さ。みの國。ぎふの中納言。しろへ。ぞかけうち。地もし
それにあるも。東國勢ハ。みのくさる井にちんとす。家康
上海とまゝ。ぞこうもすれたら。家康ハ九月一日にあるゝ





出陣ありておなしく十四日の申の刻にだゝ井に
ぬき給ふ江戸中納言ハ黒田むかんにまつりてぢゝ
ものゝためにて黒田おもてへ出陣ありけるみの國
大かさのしろ母は西國にこの御原左馬のもとけ大将
にしてぶかくのさふらひだてこゝ給ふと中村一ゝ
家康たゞ井にぬき給ふと見て九月十四日のぞんぞ
ゝ給のしろとせめかゝるに城の内にもさすが待まふけ
そうに事なれハ城のおへうけて出火花とちらしだ
かひかゝる一学内のそれかけさうのさふらひ三百余うさ
まきて申やうゝ事かゝる所にて城尾たてハきうし給ひめ
ゝてゐてをりけるをかれハ力とよハぬ城の内へかけ入かゝ
さて又十五日の卯のこくに石田治部ハ大たる形勢

が為はがちんへ大ゝ給ふ事をうしなる所にて左馬大夫
ちらむかひ一かせんして二百余人の首とぞりて せき
かもしゝ夏のまへにおしべとき事りかゝさてぞ事ハ今又
きせきうゝ原東の八口南の山のあしに人数をとそとき給
見のぢうごう二人に付敵の人数のだてやうし見てまゝ
いまゝ事ハ夕れハしこまるやいふ事をやくだち敵
の人数のだてやうと見まへ光重のもし西の門をさよ
に河左馬それに事ハ出へ給ひて脇坂中書そのかに大名
刑部かきさ東にこにしまのうゝそのあひもこし山
とへそゝ戸田むさしへ又さゝひうしへ給ひて治部ハ痛
為は先才治才くに弦さふらひかゝるにしゝ
事ハさて左馬左馬ハ兵部ハ多中務ハ四五人ハ

れとぞいふくぶりにあり。二百余とうちとりぞその日二度
かせんにぞ萬度ゑん。頼教又百折しより。戸田むさし。
津田河内にむかひぞとぜんとぞ。たゞへ大いくにをい
されいかかるをしてぞ。津井に河内にうくれなり。鴻
津浜アわをぞいぶんぶりせんとぞ。田中兵部。
かゝ多中務井伊兵部が藤左馬。越中藤堂
左衛門浜長津市。おなしく左る。金森法印。おなしく出
雲寺さいし。海いはまもこゝ外大名小名。東國勢。はなく
あく。西國勢。はいぶんしなり。志海は良おゐまぞ。すてれ
なれいぶれしとやおもひなん。まんまろにぞ。
伊勢口へ浜さめけ。大坂にも毋にのりぞ。ぶりまへ中里を
家浜アお浦いふしはのうし。安國寺あくの山ぞしこの洞

れしかくまて。一首の所こそおもれとを。ぞ道とも
おしりなる事はかなり
せめて世にいのちはあらしも又も見ん
ひてこ里さ海の花のかゝ。
小西をあらしこの里こゝにおくまを居て一首
津井にし野くみちとはきけとうしらぬしや
津ばり浜とをりあえん山ちを
安國寺を浦に志海くとぞけまつるとく
いかしへの花れ居こゝうをはるとを
命ならりはのこ里こゝまれ
かやうに日をはふれはぞ井にとしてれ人とかを。三
人なりし。浜中浜外とひきつし。六条なりしそぞ

ひとまゝ三条かけしかけられなり
御る所にて御る大名小名ふことをねざゆゑなるとぞつし。
かうさんを御まことも。そのとゝのかれてこさまゝ也て。
ゆるひハそんごくまゝうまゝなるされあるひハ國所
頭とかしあけられ軍人あけじきのすることなるも。
さんぬるころ忠義の大名小名國郡を給ひ時めさ
めてあつる事。親本の長りしあつるまことなるとも。
かくのあとく世ゆを得し。西あるを志ゆ後くし
神社を志ゆざうし。新民となで以道ぞもしかり
かれハ九州四國みなくりんとうまきゆくしだてまつ
里。法國のかけうたとへバかくしんのまゝ所にいて
志せいのあれかしたんこくまゝうこしされハ。一

天ゆゑかして。國とゝ民やまとゝなる事。ぞうへきく。
ぎやうしゆんのぞ代ゆんさ。天里やくのせいそいも。見まゆ
すぞじとそれ御しがく家上よそ下のなさけ。上
かしゆうゝる事かさかれいそせうわかんともうしん。
越りしそせうとさくへしこれかせ下されたる所。
毎年一度ゆくのぞたる壁ぞきるくあれよりて
そせうあるこのとゝぞ。ぢきそとゝけ上ゆゑよりし
しゆはたちまちかんがうのさりし火とかくげ志
うたんの。屋ことゝまゝすかくまゝうハかくへんもかさ
くちかんこも。うけ命かるまゝかり。共賤あんらくあ
てぞとてまゝ十五ヶ年の。長秋となくまゝ。ゆふ。御
所にて。寛長十九年のぞ志のころまゝ世上なるにて

あきのゆく雁ぞ[illegible]ひかりぬ[illegible]
くれたのさせ[illegible]やかたのあきの門まぎれまきもかく
ぢんどるとかうさて白のがり赤のがりふきぬきかし
とのぴきしたるし風のまゝにくひ[illegible]ぐるはよし野
たつたの花りしぢぬ[illegible]ひれあしのきそふしんもぐや
とおりひしれたるとうしかぐらと見りてせばかさわさ
てきろ[illegible]とものこぎみぐれさらまさ海ハ[illegible]の河の
杜のくれみむ海の山のもみぢをのふさふ海風よぢろ
うはうを見るはいそ海さるべきだしんかうこをな
かりかりぐれゆくまくまながむ[illegible]は法ちんまたさ
かぬぐ[illegible]火は月をそき秋の[illegible]れてぐ[illegible]
のことくなるまくて大名小名と三条の御所[illegible]

わけめ大坂のせめぐちの[illegible]とそ[illegible]
ひかしのよせてまはさけ[illegible]多出雲[illegible]田
河内のうゝ[illegible]松平たんごのうゝ[illegible]
かりを山しろ[illegible]たんごさう[illegible]交内
小浦南まは松平ちくせんしちせんの[illegible]伊の
かりん[illegible]いつゝ[illegible]海さぬきまたりの[illegible]松平
[illegible]寺沢志まのうゝ[illegible]海[illegible]
なのうちすわかのうゝ松平[illegible]守[illegible]交内[illegible]
[illegible]石川[illegible]殿助[illegible]
[illegible]九鬼[illegible]門のうゝ[illegible]海久太郎[illegible]中[illegible]
[illegible]海ひんごのうゝ[illegible]松平むさし[illegible]多[illegible]
のうゝ[illegible]のうゝ[illegible]

る馬ぐんだ。ぐさぎ事も市正だなしく。志ゐせんとはじ
めとしてくさくの徒侍都合三十万ときとそ雪しけれ
かくてとのくせめぐちとうけとゆ。ませむらふその
名をえらる。大河がりぬすなれたむまをうちひ
てくがけつこし。我さ此ことせめちうけくそん雨
中鳴り城の内ゆる人数を出して。ませきくれども。
あくしこゝゆるこまをうけつこしくせめくまいた
まるゆる。大坂さしてひきしゆるそくおくよ。西川さう
城とくく。名をえらる。れ出ありぐちすう坊岐のうゝ。
手勢一万よ紀。まさ志のくめもおけ屋しぬよ。西川さ
う城へどしませて。鉄炮をそ通へやさまをとら。
屋り。長刀を門とゆしくがりへとひくたりおめて

うくまだ志ろのそのとも。弓鉄炮をなけ捨て
き門さきをそ通へおくとせんとくだくへたおんのうゝ
ざいを折ゆりて。敵うしいきを此がせそだくうれと
下知せられ。れは大勢の此をそのたま屋苑人を
ふこつけくみされ入城中のそのんはさけくれとも
大勢うりこたてられてがれたしとやれりひくん
大坂さしてひいそゆくどひつけくみ十よ人討
されは西川さう志ろはれちうくうりあくよ物軍の無
坊ぢうひ物盗は十一月十六日ふ。亦そそでんかう口ま
此くれなしく十七日ふ九鬼長門のうゝ友与衛
見も亦うて同所うし付よくうぎなくちだん
うし志て志んけい村のてきのようゐをなしやふ

最へしとて同十八日の夜あんけいは村をぬしやぶり
同廿二日まで聖田ふくし海あんけいの君まで。
日夜ゟ河せんし同廿六日より九鬼ゟ河内井
鴨鑑とも海久大良子賀とも八良ゟしまへう
此ゟ廿九日の夜わけまふくし海の屋くらへきり
かけそくしませめたとも中母もむかひ鴨
鑑ハ大聖修理かようしいしる大おさけそのかゝ
河おりてまて顔のふひごとどりなるさて石川
とのこれすけふひよりも又分一へもてうくと見
てむかひ来うなん同せめ入なれハせんものでさ。
しろの内へひそて入なほそのころ大坂北口の川よ
まで河をうし三十てうもりひきくしる。鴨一

人もりたんまいて鉄砲をうさせて来たりなる
作行さきての者とも又六十人ほくこのかけより。
志のひよりもわけかひまさけてくほたりたんの
まのとも、かなりしとやたりひなん城の内へおけて
ゆくとなひつけぐひ十二三とりまて作行京ひさ
めさなりそのあれりち口後鴨又兵来たりとさて
門とひらいて打て出る作行京ハ二町ならひさ志
まそくほくこのかけまぐまねて鉄砲をうけ又
兵来ほめかけしなりまでけたうと打くれた
一町わまりそこをひさ又打わひなれハ又兵来
なをほめませなり作行これを見て敵ハまけ脇を
たてやうと見えたりおひしひてさと門出せと

下知せられけるに、アてはやくとひくるしさとぞ
せられバ又兵衛あしへ寄てねさほとまで切てかゝる
おそしと三宅家のつきてかれハかず殊よりはくぴい
ての家臣伴竹内膳といふものがおのてたて
かうさのみて さまさし弓を見まへきなさとゝ
ともがらできとて三郎兵衛城の内よりひでしまもの
ぬめれとの子共むかしより長門のことこそ名のりてぞけ
おたしいふありそなハせんとしかひとつかれ
くもんにいふまゝありびのくんで有馬のかひよ
ざうとおらずむかしハ実ゆる大力なれハ新井
内膳とうちよりてそのおゝけ敵六余人うちと
死去し城の内よりも又兵衛うこ十あまりむかうてきて

なにとぞとひくにうち出るれバ三宅又兵衛うちかけて打
きりけるが首へぞとびつく所をさながらはおんのうちと云ひつ
長刀をとりけるが、隣にこのうけよりのびよるところをさ
まりあまさずハさらに風ありけるとあろひきてかゝえ
まうそもくやとおもひしれるにぞちやくらんとお
りふしかしこびのぢんよりひろふ所に堀尾山城守ここ
へよりけるかまへれとをぞくとあひてたまひて定めし
城をなりけるに山しろのそのとどきのでつれと
まゐる。城の内のものがけあひせぞんくふ切こぶにそ。
てんしゆよりもひていゆきせんがけかるに諸ちんの者
ともがりおしかけれバとし手すべき道もしハやしみな
見物しもそ所をうかくるハ目をまきてとどめかけしをもと

いふ事なしたゞひとりぴとわしもひとりぞくんてお
ちぎしちゝかゝもあり。くひとれもあるこゝ御ゝもあ
いけまをしやうぶハ見てさるをかゝりしかけうつかつ
おしよぞしよせでけるうきびしくうちかけられを
まハぞきゝ城の内へひきしりそきぶしろそのハかしの
ちんへそぴかれかゝ城の内にはそのやうの夫婦和ぶをさ
さして三十よ人そうち死ま。ぶをひハ殺をしるを
山しろのこゝ此そのこ三十よ紀ゝれかゝ。ぶをひ六百よ人
さかまとかゝ作行大きなしかゝをさてぶしやをかけ
てぴしかゝ御ハ美ろ此内ゝまでてきをたまかり出しぞくん
こまくこゝは形しぞくあひよ御りをへられてきを
をひこゝまれは事軍法をぶそむきはりとあるを

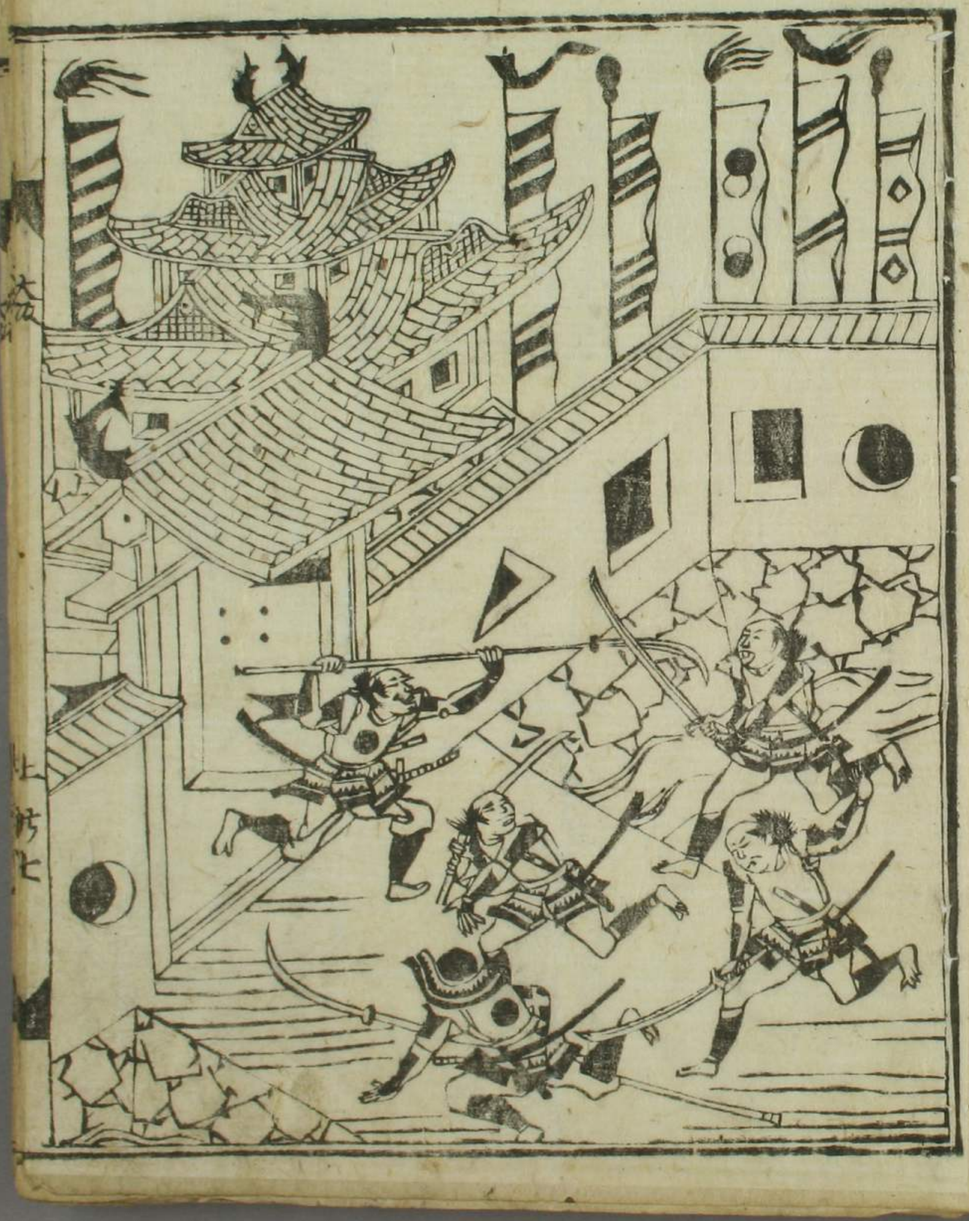
若けよをはへハ一そびハらるしかさまをかさまて。猶
の此ゝかゝまひ此兵用よはとそ卩かゝ山しろのかゝ
事女はおかせもけとを此存しのごとく。我らワラ
げよはへはぞんかうをも志かくとなせまは。さし
めのまへのでさうてはたゞけとてをあらへかさくは。
以来とても。そこけなる後ははへし。毎度此ゆるし
をかうゝかるへしこゞかされかゝぞけすへきやうハなし。
たのこきけそうる家の子らうこう折せなりしてきハ
人のまかりなしぞんの上のそんを志ろとはれ
かゝぞのこく日山しろのこゝ物軍の此まへよ来られけ
まハぞの此ぶかゝの次第此かんよおけかゝ沢のまゝり
志ろうさて折ゝしまきくぞせられそうおりぞいくさ

雀行よ。わんどう。次右衛門ざし。おくぶ。ゆ。されなりは。山
しろのうこ。ぎのふのぶ。あるせ。てうらはさる事よて
はへとも。ざこけ。まへよ。たゞ。なも。おしまとりてきと。よ
こりしそぐんかうと。はやかり。ちうぜきよ。おかえ
はざこけさそかいなくぶ。されぶ。ひけよさふ人
ぶ。二法はん。ちまとかさしてそこ。ひかる事。此越後
なもるべし。こ。ちうこうふ。ゆ。されなれは。岡城守。ぶ。ことも。
らひ。ゆ。なはは。給のことく。ひけよぎふ人は。軍法を。
なせ。ぶ。はへとも。さ。ゆもなかし。昔より。源平。敵家のかけせん
元弘。建武のごくさ。ゆも。めの前。すむ。敵を。是は。誰の結
ゑのでさかゆ。とくぐこで。あしらはやはめしこ
事を。ぶ。はれ。ぶ。ちうれてきしてこうこうとくも。

そこうなる。合戦は。仕るべし。毎度此用捨よ。頭へ。こあん
ひざもやうふ。ゆ。されなれは。おけれ。きまやうまつ。ゆ。
くれ。きまふ。やましろのかゝ見や。生年十七さいをひのさ
きさ。我をあるらんなとは。めぬ人。こそなりけり
又このころ天下よす。紀しやの和尚ときあらし
古田とりべ。ぐ。なみぐれの中よも。ぎきの友とてぶりは
てざこけぢんよたづ。ゆ。ゆさ。おかしぶ。ざこけは。きよりよ
はいて。ぶ。られなはが。屋ぐて。行たゞのかげへ。ひへ。甲とぬ
ぎて。はもる。抱ぐらりとし。ずいふろりて。菜とのこ。ぎ
してゆるりぶ。とりべうしろと。ぎけと。見とく。此竹たゞよ。
さしやくふ。なるべき竹やわるこて。うちうふ。ぶきて。こなう
りぶんうかうつぶり。たてのかげよるぎし。おし。白うぞ

へせよぞのどもと。下知せらるゝけるとゞして。
ゆゑ。居り道々ぞ門とゆくゝがけ居るゝされとも。
てきハみな城の内へひそへ。門がふ。張るものどもを。
二十ゝ人ぐらい私くゝもどのちんよひきまゝ 松平む
法のゝ正宗ぞれ人数をもちながら五郎がらせぬるゝ。
むひんなる法弟なり。志ろのそとがハ打居ふらんと。志ふ
とて地よなれ。そるぞふらひ六七きわひぞしせめぐち
見ゝり出るおりし。志ろまちかく打ことれハ志ろの内と
里。志ゝねゝりて。居ゝりなり正宗ゝうきまたち
あり。犬どんありてやしなはなかよとゝ間の屋門
おらなて門をうたゝねそ。出くまりが法きそるゝ。
なくハぞらせんとそやしなるゝその時酒ゝ事ぞ門をう

二門打出を尖すちとゝかゝおたゝ事なれハまさむ。
ゝらくと打ゝらひがけ。ゝるゝとゝそさやうにぞくへ
ぞ門てぞ門地なや。同のあさなかゝてきとはてりしと
あけ法ゝさきとさげてぞしてとそいとれなるゝそのこ
とばとぞとゝ法ゝ。ゝるゝ。千ちやうとゝ法るへて。うち
そりなるされどもまさむ。よはあくゝむ。後陣よ
ひへそるゝ。充武者の右の形しきゝまゝ。尾の見くの様
に打出されるゝまゝ。さうさ海ゝりどうどむ門まさむ。
いとれなるハどれまてがぞ門をうハぎゝうなり。そうと
とゝへ法るゝりどもやわがりゝりけかこゝり。志んべんあり
ごかひてぞゝねゝりまてのかれなり。見と見るへゝ。あゝ
ぶしかんのぞまさむ。やだゝとのぞ門をうゝ二門の目ゝ。



ちのうへにおけと紙をそのくしやとゆふまくにさて
又たてをとりまてくりかゝりたる人ぎくに人とにおつ
されれ大ぢくのうへのものゝれとかめぬものゝそなる
里々りさて又十二月三日の夜の事なるにはちすう
あるのゝこはゞ口ゝ行こゝばとつけかりぎれに
しゝせ々ゝしろの内よりぞうのきやうのはたるのぞう
里ひそうにはしとりさしゝるくとあのび出し後
ゝ里行たばうしゝりしゝ世さんくにきりて
まりうおるのうへのこのとゝおりひよりね事なれば
ぬきあるせてきゝ里みざもあのぎをくりはバと
こりきりさしゝ里と出る火ハ秋の田のまはいなげま
のぴゝ里あふゝ里が紙をしゝ里しゝばおるのうへ

のぢんゝ里はまもくとゝかけはくれ間のそのどゝ
かなけじしやおりひかんきしの上にひきしゝ里ぞ
くおるのうへのおとゝに中むしゝ右辺といふものゝ長刀
をおかりたしの流めまてゝ里のくゝはしろの内の
はるもの二人ゝ知くゝ知して志ばしたくうひ右
をとはきたをしくびをとゝんとゝしゝる所ゝ
いなぎ九郎兵衛とくゝ十又ふかゝ里くるゝたしの上
まて申給まねをなゝざれしたをるく所をとゝび
くゝ里ゝ屋ばくゝくびと知ゝ里くゝ屋ばくびと敵ゝ
とゝせもゝあまりさへてきたゝうちとゝ里ひ内ひな
きてがりなゝ里とゝ大ゝ所ゝ里ゝ所ゝんしやうをてう
だいし九郎兵衛めいよをしゝるものゝれあるのゝ

しら紀者弐七万をかへし出雲郡玉葉ちやうしぬ工がへばかの名
城の門へきす細はもとより二三ヶ年も籠城なされは
さらば敵とやかくしまもなきぬは中なれは城井よは
は和国はべしもんでもかりめし出でとや上くるは
ひろもたぶおそれなきも見えしさやなかばいかふかり
て悲しき軍のは身さへ心くるしくなりて世にたへたえいかや
秋の折そ月をまんでもすぎみんとだむと赤ききさせ
給ひてそのちはてんまるもおもりさせ給ひてぞはのれ給
てんまく世にもおもしきおとこ森変とか者なりん
と城の殿は御門てうけたまはりとてまたれての
はてんのうべと男女房たちのおくびのかずとそちうさる
是と見るさらし首はおちしくさきもとくしかもしてしさ

もとよりことハ思ひもよらぬくろふか見ようけても秀吉かうしろの
事とおもひければ大将修理ひでよしのはまべへあらはれ
かくほのちかくきのどくとやかとや上りくれハ秀頼ゑらしくとも
おもひ給ひ女ハてられき抱かれはさしもわかゑへしは敵ていて
せひせんかしで我もとかは参りて出花やうかなる合戦しけむよ
なんと家来よ拾ゑへしいくさのかしなかねがはど敵の気
おそれはおもはねね抱しとさくそでこれまんさしわりてかだて
とりる着は着て給とおりやうしせはかけんまそそおもふ
まとかしてはすごうも泣きこさんはわかしくとりへまゐる
さこう異言よもた此はあめうしかられるもつなんへ
とも給ふも世話ふの修理らけ給はれ随龍まではさてはかお
たとおくり出はそさ組がしくはかりめてひでよしとの

大坂物語 下

みなぶんせいをうくひて。我國へ入れ。京堺のものを
をかくしをけるさいかうとをもこび迎して。菓の
云。志ゆえんなりして。極具をもよかをこ　ハ
そのころ大坂より。大くらきやうの所かの。二位のつかの。
なりたるしやうしゆいあを末みんぶのせうを所にひ
として。後尉江戸へ。所ハさる。是ハ去年の大らん大
水より。ほのくに。河内の百姓とをこしぐ。逐散
して。共らうよ。あてをこなたるべき。知行所あれな
きあひだ。れかせ付られ。やうかとの所にひとそき
あしし。その所ゆてをもりて。あ所所のほだやうよハ。
もてハ去年。和国の義あひさごめくりんさよのなる
上ハ法宰人をも。ほうちたれされ。をんひんのさきをこ

そ。もりたるにせう。家へ。和ハ。老く宰人をぶらし。給ふ
よし。きあしめもと。こいたれなんぞ。次ハ去年和国の時も。
給出さるゝごとく。大坂とおけつくさるゝにといてハ。大和
の國と。和ゝもべきなる。秀頼ひつうして。其分別たら
ぎ。ぞいふ。大うしゝこゝ。侍所。秀頼をとりたてん
こおもひかけて。逆心をもとこさハ。天下のらん。
やむまし。法主ハ大坂ハ。こてきのすこうしいふりく
れかしめしてのほだやうとぞ。やかし。御れとも。ひで
よりこを。ほかうこを。ほがりてんなれ上らう人とも。
こうく志めべき命を。一人ほく。所にてきられんより。おふ
まゝの太刀うちして。名を後代に。殺さんこ。志ひさけるる
事なれハ。たゞひ。死でよりこ云ハ。大和國へ。ほうつりはこも。

たらひ。大坂より。しせらるゝとも。一ふせぎハ。ふせがん
そのを。結れども。帝都。しゆごのくめり。松平下總
守。物多分流る。伊丹掃ア助。いそぎまかるも上り。
しせどとゞまらじ。ちんゑて帝都をゞ者ごしゝ。べき
しにかせりぞ。源家康云ハ四月四日にぞん
ふと。所立ゐて。おなじく十八日に。花洛に付給ふ
大しゆ。ひてゝぞ云ハおなじく十日に。江戸を出立
ゐおなじく廿一日に。伏見に。出つきなされ。法な
京中のそのとも。安法としてどハなふ事ゆ。
更きゆゝ。大内山のわんにとく。國々の。統大名。なる
ゐ人ゐて後。いまぞ。首になる者もわり。十日に
たらぬ人もわり。去年より。のたび祿の行のごつゝ

さも。愛なりゆゑ。浴りも浴くさぬ。いりせの中
をゞ。ひきつれ。上ることゝ。ぎらぬ。ひつれにもどとらぬ
かなしゆれ。大坂下。物軍。前後に。きやうちやくを
家人とは。おりのさしやうずんゑの中物。小國
には。あらぜんの少物。かゞの。松平ちくぜんのゝ
とうしゝ。あらゝの少物。きやうごくつきて。ぞくぐ
丹後ゆ。山ゝ出物守。わきさゝ。佐竹うしのぶ。ゆゝ言ゝに
まつぐ。ひらむ川のゝ正宗。ねざの中細云ゆゝ。中
國府に。松平むさしのゝ。おなじく。交内少輔。同
びんごのゝ。かりを山しろ。物業右近。國に。ゐくらを
かわるのゝ。こゝ。あさぬき。まつぐ。式部少輔。紀州
ゐ。おさの。但馬守。のゝ。ゝり。小出やまとのゝ。無役

みは。ゑ馬がんをのみ。まつざいうまつりのうこと
ゑ内膳。そのだんくのこゝろがし。志かまとよ及ハまと。
この外くちぐちくぜんのうへ。が敬た馬助。まつざいう
長門。ちさハし。ゆみとハ。去年在江戸しこゝろかが。
此ゆきびハ。此所拘軍の此とゝして上りかり。非栄
あのちうのうへ忠奥を拘軍此へ浴の後。上らゝす。
軍此京へし見在りしすれまもなくゐさりを
まことゝ。此ゝ此とかくれかせ付られかゝる。こさゝ
かのらうせきもなりかり。あ此所京都に。此此き
の後も。此つひとりて大坂をわりゆさされ大和へ
つゝまし。わるべし。流らう人とも。命をハたものどく
ゐさうしたびくれかせ。つゝハされかれ。ひでより

こうれ所引なし。いさハ此ゆさうを志かまさせさ
まひて。いのちさへ。清くがなくて。おもしまさハたとひ。
あぞうしゆまてゝも。あ此所のおかせのまゝに志さがひ
給へとゝきかれ。ひでよりゑ。さあしめしへられまど。
あまりさへ。大和のほうゆうじハ。志やうさく太子。御舎
利。安置のがくんまて。せいさうひさしく。返拘が此所な
ゐを。大子のやまとが。在所なりとゝく。多勢を此かり。
焼ちゝひ。男女儀俗も少をいまゞ。殺さど切もて
らるゝ。是ハ去年ひでよりゑこうれ。此ゆんとゆこさ
させ給ひさるましめ。秀頼公の此事。こゝへ申さうし。
さあしめし。その此ゆんゆへなるゝ。浅野組馬ち。和泉
の國。志ぐらさいふ所まで。出城して所さりかゝを。大野

まぎれなかりし。道犬ゆきむかひてけちらせしとぞ。ひで
よしもかくせはしかりければ二万よきをひきゐして。
あかさかのそへにかけりふもとに攻城のもよほしを見ん
とてひそかに。但馬のくにぢん陣す。淡路左馬助は上田
まれへ遠宗ケ手勢三百よ紀どぜんご右よ
すゝませければことぐくせまりしかば大将老
めが目ぐろ武者大ねとだのとてにから。御国大将とぞ宗
ケ打とりければ大坂せいこれはおさしとどうしな
ひだておしもなくひきければひつまくくびをかけ
まじえとおもひしそのあひしもみだれにのく
くび三千余但馬のきうらうとりすれば紀伊
国へはやかれかれは擁してめかしてと感なしめあつま

さてみかどの境のほか八百年は滝ぎとしも泳
ぎ渡せしとぞ。ふくゆみの北おしてざんとうまへさいか
うがまく又浜のあまよきむえんの備寺堂と
あんぎうしもて北せも紀州より八宗九宗おきまたお
けしも家相とびでしも大将道犬よおかせ付
られてゆへなくやすやすとはまたかはらくしてそおさまりし
それ丸鬼丸門はむかひ我ぐんとし衆久ただ相
木をあけれ道はるかればいまそ境しへ皆まのあたり。
中まりもやすかんて鬼ほどし井らけとれは窮穴
からしとどめおまつは打とうてその日ひでよし
天王寺へはいでなされて。是へ関東せいはせ集らは
いまくがせおきて今参りむとは縁んありてそうろ

ごろすきの和尚まで。道々の目さしてぽいられ
ゐるが。此家話とんぷおとめきくとぜられるや
ねんとぷくさんぬそのもかりかり。去かどり
又月二日まで。此あいひの後おりと少とを大坂
此所引られ。此上ハぜひりしとよぶを又月三日ま
大しゆハ此馬とゆくされ。大此所ハてなしく又月ゐ。
大坂ありて。此進教なさう。大坂まもかて。関立
の事なれば二ほりしりて。おひまちまから先ん
大御所のよせ給ふ。大和給へハ未むら長門のうえ。山ぐち
さまのすけ。すくき田もやとおとぷしやうとして。おひ
志さがふ。此えをの。六万より紀。敵よせハ一ツくさして。打
死せんと。まちかけくりぷしゆのよせ給ふ。平野口

きゑ又鳴又兵衛。長宗我戸おしぷしやうまで七万よさ
あゝとやふられなれば大将のひけいのこなりしを。斗城そ
くじ。此御門へしこ。法せいり下知してびふさりざう
持こし六日のぎう。鳴りし。あ此所のせんぢん。井伊かりん
のすけ。藤堂ゆゞこのうこ。松平志もかさのうこ。斗ゐ又こ
のうこ。三万より紀ってとしよせ。天地もぴくくさりり
ま此のこ。三がと此ぐけなるぷこて川をうしまこし
いちうりれかどこそうそなれ。居りなざなさを
を川とるもくぐ。ぜ川つまくいくこうこれ川。た
たふぷをあくまとよびゝ。大坂ぜいとやしハ一さ
むのうくりしかけるとて。伊勢。く此のおうこ。や
もうこのぐりんぢんひしまやあるひいうこん

事ありひいさかくがるとてめる男の上をロおしく
おりひ夕ん。第一大さかれは四とうんおがるなりハ大和
の國まで知行四十万石くさるべしとひてゐるとこの。
れ志めぬんをちやうざりして六月ゐしひしの口へむかひ
々ゐかおさのされかけせんまはぶんどもわまさしたり
けるが二どのかけようち死する井伊揚刀助ハおや
井伊伯道のぞでぞめれ子そるまよりて おや伯道さのと
りしきやうくりんも世ぞうもかなるていまて関東は
さのしまれなるがようちの時ゐるとがひくしき氣
をくれハ西は和ハさかしめし古伯道がぶようの所を
はざ当当のせんようよぞ何べき無用 いかりんの助
ゐしかりとの給ひて近江の國作和山にざいしやう

して志ぜん上支のれちんわしハさきほどまるべし
とおかせ付られなるしわりて去年も大坂夫田
ゐ出城まで同まさりいくさして名をわけ出がか今
月のがけせんまも関東せいせめわぐんてみとなる所は
かりんのすけ。まりさきけて。ワがよせいぞりハ一
わしをひきしるとそくと敵のくひおほく折らるる名
をうるとくれハ西は和尺給ひて。されハしそ一さきうぜん
の所もものとはぞくれとのこうしと。感じおかし百て
大坂らけさよの後も。まりこのかりんの助に金銀救
万あくざされその上のやうちぞかそうもまくなるなり
故ことは。面目のいくるとなるも。茨重和泉なるのぞんもの
ゐりつさなべ勘為和ハいあくれりんしんだやうのやう

よみて大閤わけてなれども御なさけき家の一らん
ば以後宮様のもとに寄と往りむかしく月日と経て、
家来したしさいなくひとつびちんにてさてからうじまをなくも
古たいそうしやくくの御子若君ひでよし家仕よ。一き
こうぜんとたのまれやしまかれ武田さきりんのすけと
もの我事なるものかねむりことのたびくびらめて
忠ぐんの御盛りあけるねんこよまでおわりりを
きうめてなりかうごうのうちくそびあつさと射ねう
まで公もまつ門さう海りむけ方すまちせん
の歩路のぐらう志かりわかひて御井ぢよくびとぞとどの門
たうなる郡之島なりてもしはふくもみどもかわいせ
守まてもしのなかもなれば御せさう家のらん後をもるか

の手討と成るべき由法太閤いかりたまひしとき一
たんのよくりしやけれどもおのれらの名をとゞめんこ
とは知るべきなれども我今なれどもいへるものおくを
まではびでよそもとの渡者なればひでよしもてこ
門下のものとして志をもへしとまく御門にくも此ぎりゆかう
あんざいをもおしもゆるんなくひでよしもあまん合けふ
うこうやうされなるがぜ七日のこれこくなうり十言
家礼くちくくなげかれてぐうんさうしぜんみづれ〳〵。
もやうらくぶ火なるもとらわしと見てんそれに
目しよろ志しやしおとく千宗易のよしへまりたる入
さま〳〵ざおしれたる事とめくまく腹十もんしうかが
きこゆてやしおなりぬ。年七十三とぞ此ぶれし此時

いひかひなくゝ生とられ二条のはしろへあけかれハ伊
賀寺ゞけ気てゞさうしさのみよりつくしゞさくの本ゝ
志ぞうつけられいきながらゝたぢをぞざうしかゝる
こそ後洛中洛外をひさつくし六条かゝらへ門出し
かうべをたゝみられてゝくびをハ三条すしの下まざう
されかゝ大聖道大をいけどられ京都まそがうべをた
祢られへりしが和歌の国さかいのそれどを歌に不へ云
上しかゝハ所ハなくのことくもぞうちはべきが堂寺を
十分一もたちはましゞさかいのはハ地つまやうせた記
内ゝ佛かうたんじやうの不かなるをぞ道大が不ぬ
こしてやきうしなひは徳まハ佛てきたての飛
こそなれハむし平のたけひられまゝ升まゝ世てぞ

かの寺わんへくさうへきうしが行ふへ中かれハ歌に不
を歌ことゝ徳ゝべしとおかせられてぞれもち尋大
をはざかへ流かれされハ湧のいりくちまぞろ流を
ゝしそじうりかれ世ん勢れむくひとゞひながら
あさまりしかりしことゝをなれさうほくゝ
徳方ゝあまへりけまハ大坂ゝこりるせい方
のぞうぢあ祢さふらひハみ子折じまゝいひかひなる記も
れとゝや女子とゝをなどはぞうぢをもぞまれりちも
なるゝね掏とゝをぞさせなうふかけておかくぞん
まゝ門へぞびへかれハ歌ことゝうそかれ掏まふて
ふも五ともさうふ歌まゝざうしぞくこう人のざいれ
門ゝかがれ水ゝおぢまゝしまう事数をしうす

天満川にハ[illegible]んじてりみぢをなぐさもうの
川ぶりくちしさゆくさとそがらに[illegible]その[illegible]へハ
なまし井に此女ぞうしとりちもなくさん[illegible]
[illegible]さんらんどんとのやうなる[illegible]
[illegible]きて出[illegible]川[illegible]
[illegible]みなかりし[illegible]おくれなれ人のなくひ一
しうんせんもう[illegible]ハ[illegible]こひ[illegible]
むからざれどとのちうし[illegible]
[illegible]おりひしられから[illegible]
のでうかしどとでんま川[illegible]
[illegible]
[illegible]

きてひでゝ[illegible]こうの[illegible]ハ[illegible]
[illegible]
[illegible]
別として此ひめざくとよく[illegible]
ひでゝ[illegible]
たまけ[illegible]
大[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

くらしゐるを此ゆづりのやがん数四年にそぐらく十文
字ゐりの給ふ事を給へば大膳しの里を卒まいるをやがて
ういしやく仕ぬべきこんしさうれ此年廿三にそれ
たの語とさえ給ふさてもひでしるを此ゆくろ此さ
いごのことにそあるれかるを我人々うの此まことなら
さいわひ所さうらむ此の人にはぎやうの事もなかり
しに前世のちぎるをふくしてこ人のワうとまふけ
志ぶ見ハまんを此ハこさいなそこう勝給ふひでこら
を御神をぬくたのみなりしゆへにやいまてつ
ぬらなく此ゐれハ一たび天下の政治をもどり
をこなえ世なりて見るやとして日ころおりひ
しに世には神もかけもれんせねやなさけなの

あれ天下やぐらゐしのぢらしへぎとやとぐ此くてき給
ひかれハ大膳しの里中かるハぞ給ふなるれかせ給や。
兎下の者も武士のいなりし生るくものハぎしゐう
のぐらしゐるをぐ此事あるべしとぐひてれかしめし
まさめ給ハさなかぐはんや数此所をできまぐけ天下と
あれそりんとれかしめし所上ハぐくごのまへの所也。
大かうしやうあく前世のぐいぎやうにおりて一たひ天
下をしろしめしぐに一人とれそれぞ下お民をへ
里見を前事を雅こそうまうまれ此ひ
ゐくときこゑとれかしめしとこくぎんかうを。
さいさんして二人のまことをぎとる三的の見給ふ
をもひき給ふべしとれとなしやうまりしかれハ此ゆく

なうとぞうしき山やぐら子はじされひろまぞ
のかゝれ殿と金銀をちらむめしめざまくとぞさ
まひでこゝろのぼるゝと志を世語ひ又よふまれ
なるかゝ地ととゝ力ひささしのこゝひすれ居るこが
ど日なのめいふ川とかゝ川めくぐるくにもとゝ犬
坂ゝしるさらやうかうはぼりわふまじかりなる
とぞかくしぼめ川の時刻ちうらいしてその名ぞ
るとそ如まなるなるとそしやうしやひ川ぞ川のごと
なりはぼねかれがくしと見えるなり中にもわる
まなりしはひでこゝろまあうのそてめれ腹にいでき
語へ家若きこゝ八さいなるまゝ語へかゝ年ころは闕
家の中をとぞうし世語ひてわまどもさしふへに

しし世語ひてぞさ家まてぞさち語ひしが去年
ぼるまがくの後や犬坂ゝしたくしゝ名ん世日のぞんか
どにぞく一人なりの中とぼよひあり世語ひなるとだ
なまとはしられたいとしろくきけにたくしゝれは西
國ゝしくまなりてぶしこへ此まくまりなるかぞの
あるじざいもし座まてまなるがいまるまとかさざる
なんぴぶしにいられはしさいあしじとそえさせなると
我末やうましき事ふおもひて座しなひなるがよ
になさざい人まてぴうちゝかふ事もきゝいれざる
なれはもてわれひひて居なるおうしいうしても
まぞやくなんひでこゝろこゝの若ぎこゝそぶし見に
たくもなるとしくぼむひあり二条のぼしろへ此

一 頭三千百五十二 越前おおね

一 同三千百五十三 松平筑前守

一 同三千百五十四 松平武蔵守

一 同三千百五十五 松平陸奥守

一 同三千百五十六 南部信濃守

一 同三千百五十七 松平伊勢守

一 同三千百五十八 井伊掃部頭

一 同三千百五十九 井伊兵部少輔

一 同三千百六十 井伊兵部少輔

一 同三千百六十一 井伊兵部少輔

一 同三千百六十二 井伊兵部少輔

一 同三千百六十三 井伊兵部少輔

一 同三千百六十四 井伊兵部少輔

一 同三千百六十五 井伊兵部少輔

一 同三千百六十六 井伊兵部少輔

一 同三千百六十七 井伊兵部少輔

一 同三千百六十八 井伊兵部少輔

一 同三千百六十九 井伊兵部少輔

一 同三千百七十 井伊兵部少輔

一 同三千百七十一 井伊兵部少輔

一 同三千百七十二 井伊兵部少輔

一 同三千百七十三 井伊兵部少輔

一 同三千百七十四 井伊兵部少輔

一 同三千百七十五 井伊兵部少輔

一 同三千百七十六 井伊兵部少輔

一 同三千百七十七 井伊兵部少輔

一 同三千百七十八 井伊兵部少輔

一 同三千百七十九 井伊兵部少輔

一 同三千百八十 井伊兵部少輔

一 同三千百八十一 井伊兵部少輔

一 同三千百八十二 井伊兵部少輔

一 同三千百八十三 井伊兵部少輔

一 同三千百八十四 井伊兵部少輔

一 同三千百八十五 井伊兵部少輔

一 同三千百八十六 井伊兵部少輔

一 同三千百八十七 井伊兵部少輔

一 同三千百八十八 井伊兵部少輔

一 同三千百八十九 井伊兵部少輔

一 同三千百九十 井伊兵部少輔

一 同三千百九十一 井伊兵部少輔

一 同三千百九十二 井伊兵部少輔

一 同三千百九十三 井伊兵部少輔

一 同三千百九十四 井伊兵部少輔

一 同三千百九十五 井伊兵部少輔

一 同三千百九十六 井伊兵部少輔

一 同三千百九十七 井伊兵部少輔

一 同三千百九十八 井伊兵部少輔

一 同三千百九十九 井伊兵部少輔

一 同三千二百 井伊兵部少輔

一 同三千二百一 井伊兵部少輔

一 同三千二百二 井伊兵部少輔

一 同三千二百三 井伊兵部少輔

一 同三千二百四 井伊兵部少輔

一 同三千二百五 井伊兵部少輔

一 同三千二百六 井伊兵部少輔

一 同三千二百七 井伊兵部少輔

一 同三千二百八 井伊兵部少輔

一 同三千二百九 井伊兵部少輔

一 同三千二百十 井伊兵部少輔

一 同三千二百十一 井伊兵部少輔

一 同百十九 桑山左衛門佐
一 同百九 加藤武部
一 同百八 本多縫殿助
一 同九十七 多聖日向守
一 同九十 笠原織部
一 同八十 福島右衛門
一 同七十八 那須左衛門
一 同七十三 松平下総守
一 同七十 大田原備前守
一 同六十七 小村信濃守
一 同六十一 古田大猪
一 同六十七 [illegible]

一 同百十七 小村大和守
一 同百八 毛利甲斐守
一 同百二 古井大炊助
一 同九十七 大関源平次
一 同八十七 堀丹後守
一 同七十八 榊原幸江守
一 同七十四 本田出雲守
一 同七十二 徳永左衛門
一 同六十八 成田左衛門
一 同六十八 幸藤伯耆守
一 同六十 浅野宗長
一 同六十七 松平伊豆守

一 同六十三 松倉豊後守
一 同六十二 関長門守
一 同四十四 松田城之丞
一 同四十三 福島左衛門
一 同四十八 多賀大和守
一 同四十四 蒲原[illegible]
一 同四十三 大鳴一郎
一 同四十一 酒井右衛門
一 同三十 酒井雅樂次
一 同三十 石川主殿
一 同三十 伊藤紀花
一 同四十七 福島内匠

一 同六十三 松平和泉守
一 同六十 [illegible]左衛門
一 同四十四 小笠原[illegible]
一 同四十 一柳[illegible]
一 同三十四 松平甲斐守
一 同三十三 伊豆聖文[illegible]
一 同三十三 平岡平右衛門
一 同三十一 岡本[illegible]
一 同三十 青山伯耆守
一 同三十 池田備中守
一 同四十七 牧野[illegible]
一 同四十四 [illegible]

一 同廿三 牧野能登守
一 同十九 丹羽[illegible]
一 同廿六 小濱民部
一 同二十 青木雅楽
一 同十六 土山[illegible]
一 同十四 細川主殿
一 同十七 松下石見守
一 同十四 保科肥後守
一 同十七 松平越中守
一 同十二 松平将監
一 同十一 仙石兵部
一 同十三 堀尾山城守

一 同十九 稲垣平右衛門
一 同二十 杉山右近
一 同十九 三枝宗礼
一 同十七 尾里[illegible]
一 同十三 新庄越前守
一 同二十一 松平[illegible]守
一 同十四 丹羽五郎左衛門
一 同廿八 阿部備中守
一 同十二 植村主膳
一 同二十 羽柴[illegible]守
一 同十三 山岡主計
一 同十 稲葉[illegible]

一 同九 谷出羽守
一 同七 日根織部
一 同六 土山九兵衛
一 同八 藤堂将監
一 同又 山本[illegible]
一 同又 [illegible]
一 同巳 永見新右衛門
一 同又 浅野内膳
一 同二 [illegible]
一 同二 村越三十郎
一 同二 加藤右近
一 同二 向井[illegible]

一 同十 佐久間大膳
一 同七 西尾豊後守
一 同六 山崎甲斐守
一 同七 別所豊前守
一 同六 佐久間備前守
一 同六 [illegible]
一 同三 井上主計頭
一 同四 久貝忠三郎
一 同二 内藤帯刀
一 同二 保坂遠江守
一 同又 奥田九左衛門
一 同又 向井将監
水谷伊勢守

一 同壱 六郷[illegible]
一 同壱 [illegible]
一 同壱 [illegible]大和守
一 同二 酒井河内守
一 同二 [illegible]主殿[illegible]
一 同二 安藤式部少輔
一 同壱 大[illegible]
一 同壱 松平小三郎
一 同二 成瀬[illegible]
一 同壱 成瀬[illegible]
一 同壱 川口[illegible]
一 同壱 小[illegible]

一 同壱 酒井[illegible]
一 同二 松平越中守
一 同二 [illegible]
一 同二 内藤[illegible]
一 同二 酒井修理[illegible]
一 同壱 松平[illegible]
一 同二 松平右[illegible]
一 同二 小[illegible]
一 同二 [illegible]代甚三郎
一 同壱 永井[illegible]
一 同壱 三枝源八郎
一 同二 永井[illegible]十郎

一 同壱 土屋[illegible]
一 同壱 松平[illegible]
一 同二 [illegible]
一 同弐 [illegible]八郎
一 同二 本田八十郎
一 同壱 坂部[illegible]十郎
一 同二 久世三[illegible]郎
一 同二 細井[illegible]
一 同一 小沢[illegible]
一 同一 石尾[illegible]八郎
一 同一 [illegible]九郎
一 同一 鵜[illegible]

一 同壱 安藤[illegible]八郎
一 同壱 松平[illegible]
一 同弐 遠藤[illegible]九郎
一 同壱 三枝[illegible]九郎
一 同二 [illegible]
一 同壱 稲垣[illegible]
一 同二 石川[illegible]
一 同一 小沢[illegible]
一 同一 戸田[illegible]
一 同二 曽我[illegible]
一 同二 安藤[illegible]
一 同一 青山[illegible]十郎

一同一	安藤治右衛門	一同一	伊藤右近
一同一	斎藤主殿	一同一	今村彦兵衛
一同一	水野源兵衛	一同二	奥山式部
一同一	駒井右京	一同一	松平隼人
一同一	中山勘解由	一同二	中山助六郎
一同一	渡辺民部	一同二	牧野織部
一同一	日根長五郎	一同一	曽我十兵衛
一同一	前島十三郎	一同一	鈴木市蔵
一同一	市橋右京	一同一	加藤久右衛門
一同一	加藤伊織	一同一	佐藤治左衛門
一同一	駒井三左衛門	一同一	今村伝十郎
一同一	保々甚兵衛	一同一	木造七右衛門
一同一	堀三右衛門	一同一	戸田又久
一同一	遠藤平右衛門	一同一	遠藤六左衛門
一同一	戸田平兵衛	一同一	大久保新八
一同二	今村伝右衛門	一同一	戸田与三郎
一同一	[illegible]	一同一	福田長右衛門
一同一	大久保六左衛門	一同一	[illegible]
一同一	三枝源兵衛	一同一	[illegible]
一同一	新見[illegible]	一同一	鳥居[illegible]
一同二	鳥居七兵衛	一同一	井戸[illegible]
一同一	[illegible]金右衛門	一同二	酒井[illegible]
一同一	佐藤三左衛門	一同一	[illegible]
一同一	山上[illegible]	一同一	加藤[illegible]

大統暦法 下

授時術用小数表

一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四
五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五
六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六
七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七
八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八
九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九